夕刊 京城日報

…の中を爆薬取付け作業中の岩仲快速部隊=航空便

殘敵に最後の火蓋
蟻も逃さぬ包圍態勢整ふ

【〇〇にて二十一日同盟】徐州占領に武勲を輝かした〇〇部隊は急遽進路を一轉して徐州南方の山岳地帶に向ひ〇〇及び〇〇部隊と共に山系に沿うて進撃中、また覆面の奇襲部隊は爽滯を抜き、かくて我軍は完全に左右連繋を保ちつゝ文字通り蟻も逃さぬ包圍態勢を整へた、一方南下中の〇〇部隊は江蘇、安徽の平原に駒を進め來り老寨山、君保山、葛塚山、黄山、青龍山など徐州東南山地帶を距てる優勢な包圍威力を増大しつつ胡山、猴山、白項山の線より青龍山、黄山の線に追詰めた敵兵團に對し最後的火蓋を切らんとしてゐる

蘭封の敵殲滅近し
小癪にも敵の戰車逆襲

【北京二十二日同盟】昨二十一日午後一時半蘭封西方地區においてまたも敵は戰車四台を先頭に小癪にも逆襲し來つたので、我が軍はこれを攻擊戰車及び野砲一門を鹵獲した、蘭封、開封間に我が〇〇快速部隊により完全に遮斷しこ殲滅の餘儀なきに立至つてをり蘭封方面における敵部隊は

數千の敵を潰滅

【北京二十二日同盟】隴海線以南〇〇部隊は廿一日午後平山頭(徐州東方約十里)北方地區及び東北の敵を西南方に急追中であつた我地區にある五千及び三千の敵を攻擊しこれを潰亂に陥らしめた

我海軍航空隊
駐馬店を奇襲

【上海廿二日同盟】廿二日午前十時半〇〇海軍航空部隊發表=我が海軍航空隊は昨廿一日左記活動をなせり

(イ)鈴木少佐、相生大尉の指揮する三十數機の航空部隊は正午頃駐馬店を急襲し停車場その他附近の集積軍需品を爆破せり投下せる二百數十の爆彈により四十輛の貨車を粉碎炎上せしめ又驛建物構内線路を爆破した驛附近に集積せられたガソリン旗その他軍需品は直擊彈のため猛烈な火勢を揚げ炎上せり敵機の出現するものなく我方は全機無事歸還せり

(ロ)徐州東方に於ける敵軍團部隊攻擊に協力せる部隊は連日同様の活動をなせり

チエッコ國内不穩

寫眞上より ヒトラー總統、ズーデテン黨首ヘンライン氏、チエッコ大統領ベネシユ氏、同首相ホヂャ氏

政府萬一に備へ 豫備兵を召集す

【プラハ二十一日同盟】チエッコ政府は事態の擴大に備へるため豫備兵の召集を行ふことになり、二十一日左の如く公表した

チエッコ政府は、臨時訓練實施のため二十一日豫行豫後備部隊並に特科隊の一部召集を實施した

一部に戒嚴令

【プラハ二十一日同盟】チエッコ政府はズーデテン地方における事態の惡化に對處するため二十一日北部ボヘミヤのグラスリッツに戒嚴令を布告し、國境附近における集合を一切禁止すると共に夜間戸外通行並に武器の攜行を禁止した

召集は相當廣範圍

【プラハ二十一日同盟】チエッコ政府は二十一日實施した豫備兵の召集範圍を極秘に附してゐるが、同日召集された豫備兵は當年二十八歳の兵で一九三〇年の調査ではその數十四萬名に上つてゐる、その他電信兵工兵及び特科部隊も召集されたが、四十歳以上の壯年兵まで多數召集されてゐる所から見て事態は相當重視されてゐる、なほ召集はドイツ人居住地域たるズーデテン地方に於ても實施されたが豫想に反し何れも欣然召集に應じ又召集兵の集團に對しても事件が起らなかつたのは注目される

事件勃發の報道を受くるや二十一日午前直ちに緊急政務委員會を開き黨の執るべき態度につき協議を行つた、同黨はズーデテンドイツ人の殺害事件につき激昂はしてゐるが事態の急惡化を避けるためこの際自重的態度をとるに決し、委員會殿會議決のコンミユニケを發表した

ズーデテン黨政務委員會は全黨員に對しこの際性急な行動に出づることなく飽まで冷靜を持するやう命令を發するに決定した、しかしながらズーデテンドイツ人に對する挑發行爲が後を絶たぬ限り政務委員會は個々のズーデテンドイツ人が自己防衛の手段に訴へることを阻止することは出來ない

チエッコ國境方面に ドイツ、軍隊を移駐

【ベルリン廿一日同盟】ドイツ政府は國軍の豫備兵動員を否定してゐるが獨墺合併によりオーストリア軍隊の編入後獨々軍隊の移駐を斷行してゐるがチエッコを結ぶ國境山岳地帶の防備に向つてゐることは明かで相當の歩兵部隊を移駐してゐるのではないかといはれる他方國軍の豫備兵に對しては當分旅券の交付を中止した事實があり、ドイツ政府は最近頻發するズーデテンドイツ人に對するチエッコ政府の壓迫はナチスドイツに對する國家的侮辱であるとの見解を持してゐるといはれ廿一日の各紙は例外なく『チエッコの挑戰』と題してプラハ政權の放列を布いてゐる

チエフ(ボヘミヤ)で 獨逸人二名射殺

【チエフ(チエッコスロヴアキア)廿一日同盟】チエッコスロヴアキアでは地方選擧切迫と共に全國各地にチエッコ官憲とドイツ人との衝突事件が頻發してゐるが、二十一日午前チエフに於て又復ドイツ人二名の射殺事件發生し紛擾を惹起してゐる 右二名のドイツ人は自動車に搭乘チエフ憲兵隊の兵營前を通過せんとするや、チエッコ憲兵はなんらの理由なく突如發砲し即死一名重傷(數時後死亡)一名の慘事が發生あさつさへ附近に居合せたドイツ人の救援をも拒否したのでチエッコ内のドイツ人は極度に憤激全市に互り不穩の空氣が漲るに至つたので警官隊及び憲兵隊は直ちに出動、目下全市を警邏中である、因にチエフはプラハ西方九十二哩に位するボヘミヤの小邑である

ズーデテン黨 コンミユニケ發表

【プラハ廿一日同盟】チエッコの鍵を握るズーデテン黨は、チエフ

獨政府の態度注目さる

【ベルリン廿一日同盟】チエッコスロヴアキアにおける事態の險惡に對しドイツ政府は如何なる態度に出づるかは歐洲における平和か戰爭かの鍵を握るものとして識者の注目を惹いてゐるが、ハバス通信社ベルリン支局の報ずる所によれば、ベルリン外交界消息通の觀測を左の如く傳へてゐる

ドイツ政府は直ちにチエッコ問題に關し武力干渉を試みるは歐洲戰爭を誘發するものとして官邊ではチエッコ問題に對する積極的行動に出でるは差控へる意向らしいが、ナチス首腦部が歐洲の一般情勢を綜合して今こそ干渉に乘出す機會だとの結論に達したならば直ちに行動を起すことになるかも知れない、殊にムッソリーニ首相のゼノア演説以來スペイン問題が急激に惡化してゐる現在、英佛兩國は勿論ソヴエートも赤中歐に對し積極的干渉を企つることが出來ないからドイツがチエッコに對し積極的態度に出づるには今が絶好の機會だと考へられる、しかしドイツ一般の輿論はチエッコがフランス、チエッコ兩相互援助條約ソヴエート、チエッコ並にフランスに存してゐる以上獨墺合邦の如く速かには運ばないと見てをり

英國政府警告

【パリ廿一日同盟】チエッコの事英吉利政府の出方も赤豫測を許さないものがあると考へてゐるので、ナチス黨首腦が情勢を判斷、以上の事實を考慮に入れる限り、チエッコ問題は必ずしも非觀すべきでないとしてゐる

選擧を目前に控へて 不安と興奮の頂點

【ロンドン二十一日同盟】チエッコ地方自治體第一回選擧をいよいよ明廿二日に控へてチエッコ國内は不安と興奮の頂點に達してゐるが、二十二日ロンドンに達した報道によれば、チエッコ政府は廿二日の第一回選擧當日不祥事件が勃發した場合は、來る廿九日及び六月十二日施行される豫定の地方選擧へられる、また廿九日問題のズーデテン地方自治體の選擧が一齊に施行される豫定なので政府は暫くこれを延期して事態の推移するのを待つのではないかと言はれる

…問題大化と共にパリ外交界でも相當た緊張を見せつゝある、二十一日駐佛ソヴエート大使スーリッツ氏はフランス外務省にボンネ外相を訪問、對チエッコ相互援助條約に基づく重要問題を協議したのを始めとし、午後はイギリス大使エリック、フイップス氏、チエッコ公使オスヌスキー氏も相前後してボンネ外相を訪問ズーデテン問題に關し長時間に互り重要協議を遂げた、パリ外交界の傳へる所によれば右會談においてフイップス大使とボンネ外相は去る四月下旬英佛會談の申合せに基きズーデテン問題に對し緊密協力を維持するに意見一致したと言はれるが殊にイギリス大使ヘンダーソン氏は二十一日兩日に互りリッベントロップドイツ外相を訪問した際ズーデテン問題の重大性を指摘、チエッコに對する第三國の武力干渉はイギリス政府として容認出來ぬ旨の警告を與へた模様であり、ズーデテン問題の發展に伴ひ英佛兩國政府は緊密なる協調を確保して行くものと見られる

日曜氣配(五月二十二日)

◇株式 買方の失望と統制強化を懸念する嫌氣投げに崩れるも戰果待に下値淋しく押目買ひ人氣にて弱含み

大新七八〇〇東新一四四七〇鐘紡二四五〇〇滿鐵八一〇〇

◇期米(天候晴れ)環境安くも産地は下値りに底堅く目先氣迷ひ双方全く見送りの店舗待ちに氣配

人

◇安藤榮城大佐(鎭海要港部航空司令)廿一日朝入城不知火

◇小竹無二雄氏(阪大教授)廿一日午後入城半島ホテル

◇鹽川正藏氏(元代議士)廿一日午後入城半島ホテル

◇牟田口利彦氏(慶北金聯支部長)廿二日朝入城不知火

◇清水榮次郎氏(咸南會寧邑長)廿二日朝入城不知火

天地玄黄

歐米における日本認識漸く變調を呈し來る

×

日本の實力への認識が今となつて再認識の努力となつて現はれて來たことが第一

×

企圖の自給自足の現實の強味の認識がその第二

×

そこまでは大に宜し、しかし彼等は彼等の歷史と傳統の情性から精神的他の半面の認識を忘却してゐることが大なる缺陷

×

即ち日本の正義と然國の大綱神への認識不足と認識しようと努力せぬことが彼等の不徳

×

彼等が認識するとせぬとに拘らず正義日本の大綱は前進する

紅繪曼荼羅(31)
海音寺潮五郎 作
富永謙太郎 繪

小梅の寮(二)

道は、橋を渡り切つて、右側に長い武家屋敷の塀のつゞいてゐる大河沿ひの道になつてゐた。すつかり暗くなつてゐたので、對岸の民家の灯影や、往來の船がこぼす灯影が滴ちて珠簾のやうにゆれ上つてゐる水面に美しく映つてゐた。

本多の話のつゞきである。

「――長崎八人の町年寄の家でござつたが、父なる人が死んだ。あとには、あの嫗と嫗の兄とが殘つた。ところが、その兄といふのが――いや、清川殿は知つてゐると仰せられましたな。なに、詳しくは御承知ない? さやうか。その傳吉郎といふのが、町人に似合はの碩と繪畫の繪の字を嫌ひます。部分むづかしい名前で。その碩に縁を取つて、あとはやつて貰ふ。わしは好きな道をやらしてほしいと言ひ出し申した。然るに、その碩始がそれを肯かぬ。縁を取つて商賣をするなど、眞平。わたしも學問したい、とかやうにこね出した。これも男嫌ひ、學問好き。兄妹揃つての氣狂ひですな。それで親族が寄合つて相談するやら何やら、すつた揉んだの末、親族の二男夫婦を夫婦養子として家業は繼がせることにして、兄妹は望み通りに學問することになつて、多少の財産を分けて貰つて、こちらに來てゐるのです。あ、さう〳〵。二人の學問の師匠、これは清川殿も御承知の人物だ。誰だかあてゝ御覧なされ」

自分の承知してゐる人物が二人の學問の師であるといふのだ。龍之介は、名簿でも操るやうに一人々々、自分の交友の名前を思ひ出してみた。

『――山本先生でござらうか』

本多は、ちがふ〳〵といふやうに首を振つて

『もつと思ひがけない人』

『はて?』

『お解りになりませんかな』

『誰でござらう』

『近江谷風叢』

『おゝ』

『御記憶でござらう。先日、貴殿の御屋敷の近くで、われ〳〵を驚かして馬を飛ばして去つた近江谷風叢、あの傲慢な浪人隱者が二人の師ですて』

異裝と異相の、そして、あるひは異なる嗜みから來る惡口かも知れないが、切支丹邪術を行つて妖術の後端になつてゐるといふ噂のある、あの怪奇な人物が二人の師であらうとは――

龍之介はしばらくの間口も利けないくらゐ不思議な恐怖に打たれた。

ず學問が好きでござつてな。長崎の町人の中には、相當な學者としても十分通用するほどの學の素養のあるものが多いと承つてゐるが傳吉郎の好學ぶりは、狂に類する學問氣狂ひと申すものがあるとすれば、手もなくそれで、學問以外のものは、何によらず嫌ひ。家業など見向きもせぬ。怪しからんことには、酒も嫌ひ、女も嫌ひと申すのださうで。おゝ、おゝ、先刻の清川殿御家來の鉛藏殿も女は嫌ひと申されたが、あれは愿嫌。遊ぶはよろしいが、これは、一切合財、ありとしある女は皆嫌ひと申すのだから、途方もない狂氣沙汰で、一體それほどの豪富の家に生れたがらと、愢嘆に堪へぬ仕儀か、例によつて、本多の話しより飄々として、どこへ飛んで行くかも取りとめもないので、龍之介はまたしてもいらだたなければならなかつた。

『はゝゝゝ、脱話休題、脱話休題。さて、ある日のこと、傳吉郎が申すやう。わしは隱居をする、あとは妹――ともゑと名は言ひます。巴の字ではござらん。弓矢の

見果てぬ青春【125】

川口松太郎作　志村立美繪

【新派座上演映畫化】

夏近く（五）

水の美しい海岸の散歩に行つて歸つて來ると、二人は川岸へ降りて釣をした。船に乗つて鮎がよく釣れるのだが、二人とも魚の事なぞは念頭になかつた。あとからあとからと、つまらない話で夢中になつて、魚が喰つても氣のつかぬ事さへあつた。そのくせに、時々竿を上げては、餌を取られた針の先に舌打をして

「話ばかりしてゐるから、ちつとも釣れないぢやないか」

「どうせ、私たちに釣られるやうな馬鹿なお魚はゐないわよ」

「魚の方が僕たちより利巧かな」

「さうよ、どうせ魚を釣らうと思つて糸をたらしてゐるんぢやないの」

「ぢや、何を釣らうとしてゐるんだい」

「釣るんぢやないの、考へてゐるだけよ、いろいろと……」

「どんな事を考へてゐる？」

「今日は、人生の不思議を考へてゐるんです」

「人生の不思議？」

鸚鵡返しに、

「人生の不思議と云ふと……」

「第一が、佐山さんと私、不思議な關係だと思はない？」

「さうだね、考へて見ると不思議だね」

「初めてあなたが私を訪ねた時は喧嘩に來たのよ」

「僕が喧嘩に行つたのぢやない、君が僕を呼び出して喧嘩を吹つかけたんぢやないか」

「どつちにしても喧嘩は喧嘩よ」

「でもあの場合は少くとも、僕が受身ぢやないか」

「二度目は私が、千駄ケ谷の崖下へ落つこちて、その落ちたところが佐山さんのお宅なのだから、人生の不思議も此處に至つて極まり……だと思はない？」

「さう考へて來ると、偶然の連續だ。不思議と云ふ文字も出る」

「人生の不思議つて、全く不思議ね」

偶然の不思議を、理子はむしろ感謝したいくらゐの氣持だつた。偶然と偶然とが、自分と佐山を結びつけてくれたのだ。

「然し、僕は、最初に君の家へ行つた時から、内心ではもう君が好きだつたんだよ」

「うまい事を云つてらあ」

「いや本當だよ、君の方ぢや僕と云ふ人間は初めてだけれど、僕の方ぢや幾度も見てゐて、好意以上の好意を持つてゐたし……」

「好意があつてあんな事を書くの？」

「あればこそ書くんぢやないか。好意がなくつて誰が本當の事を云ふもんか、嘘でかためた中で生きて來たから、人間の本當の好意が判らないんだ」

「さう」

「實業家に實業家で初對面にはあんな事を云ひ合つてしまつたけれども、喧嘩をしながら君と云ふ人間が判つて來たんだ、話せばきつと判るやうな氣がした」

「本當に……」

「だから、喧嘩してみても内心では怒つてゐなかつた、崖下で助けた時なんか、むしろ嬉しかつたくらゐで、神様がうまい工合に引合せてくれたやうな氣がしたよ」

ラヂオ　廿三日（月）

第一放送

朝の部

午前六・〇〇（東）ラヂオ體操
六・二五　ニュース
六・三〇（東）支那語講座
七・〇〇（東）時報　今日の天氣見込
七・〇一（京）朝の修養
七・二〇（東）朝の音樂（レコード）
九・二〇（城）氣象通報
一〇・〇〇（東）家庭メモ　料理獻立（ポーク・チャップ・京城・釜山）
同（[illegible]・平壤）
同（[illegible]・清津）日用品値段
一〇・二〇（城）講演　大和の誓願と國民精神總動員　修養團主幹　蓮沼門三
一一・〇〇（東）小學生の時間『第一』お話『ヒコウキニノッタコネコ』　栗屋　正子

晝の部

正午（東）時報
（城）浪花節　義士傳　廣澤第一文字
午後〇・三〇　ニュース・鮮魚節
一・二五（鮮）衛生講演（朝鮮語）日光浴をしませう　朴容海
二・〇〇（城）小學生の時間「第四」（京城・釜山）唱歌「ワルツ」　京城師範附屬第一小學校兒童　解說・伴奏
二・〇〇　小學生の時間「第四」（平壤）唱歌――齊唱　平壤師範附屬小學校兒童　ピアノ伴奏　金
一、初夏の夜　二、鼻歌　四年女子　三、村の鍛冶屋　四、廣瀨中佐　四年男子　五、春の小川　六、僕は軍人大好きよ　全員
二・〇〇　小學生の時間「第四」（清津）唱歌（文部省唱歌）清津府清津尋常小學校兒童　伴奏　獨唱
一、春の小川　二、同水車　三、獨唱　四、齊唱　五、同愛國行進曲
二・四〇（東）ラヂオ體操
三・〇〇（東）母の講座（四）子供の癖とその矯正法　醫學博士　金子準二
三・二〇（東）教師の時間　讀本朗讀講座（七）小學國語讀本卷五　東京市赤羽小學校
四・〇〇　ニュース（氣象通報・茂山・清津）
四・二〇（東）大相撲夏場所實況（千秋樂）兩國國技館より中繼

夜の部

六・〇〇（東）ラヂオスケッチ〃青葉のころ〃　東京コドモクラブ
六・二〇（東）コドモの新聞
六・二五（東）講演　健康相談　法學博士　下村宏
六・五五（東）カレント・トピックス
七・〇〇　ニュース・天氣見込
七・三〇（東）國民歌謡　一、獨唱　子守唄　オコロリ　二、合唱　若葉の歌　伴奏　東京放送管絃樂團　谷口　ホワイト合唱團
七・四〇（東）講演　支那經濟の現狀　經濟學博士　永雄策郎
八・〇〇（東）ピアノ獨奏　マキシム・シャピロ
八・二〇（東）詩吟
一、赤馬關　二、泊地　三、吉野時鎮（西南役）　四、偶成　五、命州城外作　六、京都山崎途中作　七、八幡宮　八、九月十三夜　九、吉野懷古　十、侍宴和賦　十一、未定　十二、明治所懷
石坂　寺田　清水　原　中村　岡田　三矢　森谷　瓜生田　矢橋　柏宮　西田　佐々　近藤
八・五五（東）ラヂオ風景「初夏」（一）〃家庭〃　加藤　（二）〃工場〃　職工A　職工B　母　兄　（三）〃農村〃　お久　三浦正子　鉄一　木崎豐
九・三〇（東）時報・ニュース　氣象通報・明日の番組
一〇・〇〇　北支戰線より
一〇・一〇（東）ニュース解說　（城）地方へのニュース・終了

第二放送

正午　レコード
午後一・一五　衛生講演　朴容海
六・〇〇　童話
六・三〇　週間情報
七・三〇　農村講座
八・〇〇（東）ピアノ獨奏
八・三〇　野談
九・〇〇
一〇・一〇

あすのきゝもの　廿四日（火）

午前一一・〇〇（大）幼兒の時間　リズム遊戯〃開花れ大阪〃　大阪花びら會
正午（東）時報につゞき（東）トーキー音樂
午後四・三〇（城）野球試合實況（決勝戰ある場合）（京城・平壤・第二放送）京城實業野球リーグ「殖銀―遞信決勝戰」京城球場より中繼
六・〇〇（東）幼兒童話「オハナシゴツコ」　東京童話クラブ
六・二五　講演（京城）兵神信仰に就て　三浦一郎
六・二五　講演　牛馬重工業の現在及將來
六・二五　講演（平壤）平壤附近の化石に就て　平壤第一中學校教諭
六・二五（東）講演（清津）郷内清鶴博士に見たる教育家としての一面　文學博士　五十嵐力
八・二〇（城）詩吟指導　大森博之
八・五五（大）義太夫　增補忠臣藏　本藏下屋敷の段　文樂座　竹本相生大夫・外

ラヂオスケッチ　青葉のころ（午後六時）

東京コドモクラブ

（第一景）ハイキング

雲雀が麥畑から舞ひ上つて中空に囀つてゐます、牛が牧場で鳴いてゐます

健ちやんと武ちやんと三ちやんと光子さんと和子さんの五人が野を越え、山を登つてハイキングをしてゐます、皆それぞれ樂器を鳴らして歌を歌つて朗かに元氣で歩いて行きます、やがて小川にさしかかると、アヒルが泳いでゐます、そのアヒルの首に通信筒がつけてあります、そしてその通信筒の中に鰻の淵山あるところがあるが、そこを探していけといふ謎がはいつてゐます、みんな勇み進んで樂器を鳴らしてハイキングをつゞけます

（第二景）ホト・ギス

森のお宿で鶯が午睡をしてゐると子供のハイキングの樂隊が通ります、鶯がハイキングつて何だらうときくと、杜鵑がハイキングのわけを云つてきかせます

何處からか一羽の時鳥がやつて來ます。そして鶯の巣の中に鶯の卵と一緒に時鳥の卵がはいつてゐるのを見て、時鳥がそれをハイキングの小僧たちのせゐだとするのは私の謎だが、しかし、さうだつてゐるのを見ると安心だと云つてゐるだけで、そのほんとの秘密を話しません

そのうちに鶯が歸つて來ます。やがて鶯の卵から子供が生れます。そこで鳴かせて見るとその聲は、ホトトギスの聲なので驚いてゐるうちにその子供の親が見えたくなります。

（第三景）鯨博士

鯨が五六匹森の小屋に集まつてゐます。どこからか落ちてきた鵯のことに就いていろいろと話合つてゐます。そのうち一匹が質問を出しますと、その質問を知つてゐるのはその中の一匹だけなのです。そこへ鯨博士が來ます。そして鳥の仲間だといふことがわかります。

（第四景）花時計

カナリヤが囀つてゐる一郎君のお家です。一郎さんは花時計になる「スベリヒユ」をとりに行つて崖から落ちてけがをします。しかし一郎さんが採集してきたいろいろな花で時間がわかるのでした。一郎君は北支戰線の勇士へ慰問袋を送る時、その中へ花時計の話を書いて送ります。その慰問文を讀んだのは○○隊の小久保といふ伍長さんですが、その伍長さんから一郎君の學校へ校長さん宛にお禮の手紙が屆きます。

講演＝大和の誓願と國民精神總動員（前十時二十分）

修養團主幹　蓮沼門三

一、全體主義と調和主義の明るき世界は聯盟精神の誓願を基として始めて實現せらるゝのである
二、聯盟精神の誓願は全體信念の實現によつて達成せられる
三、國民精神總動員の必要は全體信念の宣風を作興するにある

大和以上を骨子として御話致し度いと思ひます

ラヂオ風景　初夏（後八・五五）

三浦洋平　伊藤智子　外

（一）家庭

健康週間を機會に家中揃つて朝早く體操を勵行しようと言明した御本人は、今日も又なんのかんのと言を左右にして、床を離れようとしない。この朝寝坊の兄を起しに來て口喧嘩をするのが日課になつてしまつた妹も、口角泡をとばしてゐる中に何時も體操の方を忘れてしまふ。結局この一騒動のおかげで體操の項目もなくなつたといふ時お母さん一人、明日からは一層勵行しようと云ふ事になる

（二）工場

おひる時である。職工AとBは仲よく辨當を開いたが、B君食慾がないと云つて、細君の心づくしの辨當にちよつと箸をつけただけで蓋をしてしまつた。AはBの分まで平げたが、醫學未來が緊張に好い上に非常にうまい事を發見し、こんなうまい辨當を……

（三）農村

鶯の飛ぶ晴れた靜かな晩、貰ひ風呂の歸りにお久は、村の若者鉄一を助れる。若い二人には色々の抱負がある。今日も、近い中に町から來る勤勞奉仕班について、二人は盛んに議論しながら蛙の鳴く畦の道を行く

ピアノ獨奏（午後八時）

マキシム・シャピロ

練習曲　十二　ショパン作曲

一、ハ長調　作品十第七
二、ヘ短調　作品十第九
三、ヘ短調　作品二十五第二
四、變ト長調作品十第十一
五、變ホ長調作品十第四
六、嬰ト短調作品二十五第六
九、變ニ長調
十、變ト長調作品二十五第九
十一、嬰ハ短調作品二十五第七
十二、イ短調作品二十五第十一

ショパンは全部で二十七曲の練習曲を書いた。最初の十二曲は作品十として一八三三年に出版、次の十二曲は作品二十五として一八三七年に出版した。殘る三曲は作品番號を附せずに發表された。いづれもピアノ音樂の不滅の藝術品である。そのうちから演奏効果を考へて十二曲を選んで演奏する。

本社特選　半島大棋戰（15）

先　二段　松本　薰氏
先二　岡上新吉氏

黒の健闘も空し　但し放了は時機尚早の憾あり

講評　七段　瀬越憲作

◇黒百十九で百二十にサガるのは黒百二十七のツギは仕方がない、若し此の手で百二八にマガると、白から百十九にオサれて惡い。以下黒百二十五までは必然の棋形、百二十七にキリ黒「ぬノ九」白「ちノ八」で、左下の黒か或は右下の黒の大石を取られる事になる。

◇白百二十六は斷から場合の形。

◇黒百三三で實は左上隅に何か手を打つて行きたいのであるが白に「ちノ九」にノビ出されると左右の黒の大石が危険に瀕するから、それで已むを得ず涙を呑んで百三三と打つたのであらう。斷くして顧念された「とノ十三」の缺陷もこれに依つて完全に解消される事になつた

隅とカワる手段

◇白百三四を「をノ三」に打つて參考圖の如くフリカワる事も考へられ、白としては寧ろその方が優つてゐるやうに思はれる（參考圖）白一とマゲツケれば、黒は二、四、六と出て行く一手。黒若し二で「い」にキルと白二黒「ろ」白四で左上隅の黒を取られて了ふ。以下黒十四までのフリカワリとなる。

この結果は、實利的には白が多少損であるが、這に比して上邊九四以下の白が完全に取つてゐる處に圍の手段が成立する所以が存するのである

要するに九四以下の白に後顧の憂ひがなければ、右上隅の黒のシマリに向つて如何なる事でも、自由自在に成し得るが、是が不安定では左方に牽制されて、隅への手段はある程度制限されるやうな事になる

参考圖

時機尚早の理由

◇白が百四十と備へるに及んで黒は到底通はじと見て、潔よく一局を放了したが、聊か時機尚早の感なきを得ない。

と云ふ譯は、黒「はノ二」にツケ白「へノ三」黒「はの三」と左方の白を攻めれば、右上隅には相當地が付くし、亦左上隅は黒「れノ三」と打てば、此處に活路があるとは斷言出來ぬが、兎に角白としても隅を確保する事は容易な事ではない。

本局は龍頭蛇尾黒の好い碁であつた。それぞれに最後の敗着となつた、黒百十三のキリが惜しまれてならない。

しかし乍ら白の奮闘も見逃す事は出來ない。

――明日轉載を掲げ本局を終る――

觀戰記

黒の敢闘も空しく、遂に白の軍門に降る。斯かる好局を負けても、勝つ碁ではないが、「勝敗は兵家の常」向後の敢闘を望む。

京城日報
號外
昭和十三年五月廿二日

徐州大會戰・歷史的勝利の日

【寫眞說明】（1）皇軍堂々徐州へ入城 （2）徐州市街 3 徐州占領直後沼田部隊の萬歳（いづれも飛行便）激戰の跡

【この號外は本紙に再錄いたしません】

寫眞說明

【1】徐州にて乾杯する〇〇部隊【2】徐州へ入城する皇軍【3】南下部隊續々前進【4】城壁から敵狀觀測【5】敵機關[illegible]を占領して萬歳